

目覺めよ！ 一時も早く

銚子の全労働者諸君！！

そして労働組合に入れ

労働者は、労働組合に入つてこそ、はじめて生活をラクにすることが出来、また安心して工場で働くことが出来る。うそか、まことか、諸君は諸君の仲間、野田の労働者を、または、中野や鶴見の醬油屋者を見るがよい！ 諸君のように、安い日給で朝早くから一人半もの仕事をして居る者があるか、諸君のように、イツ工場から出されるかと、ビク／＼しながら働いて居る者があるか、一人もそんないくちなしな人間は居ないではないか、夫は言ふまでもなく、一人残らず労働組合に入つて居るからである。

されば、一日早く労働組合に入つて居ることは、それだけ早く安心して働けることであり、一時早く組合に入つて居ることは、夫だけ早くクラシがラクになるモトである。すでに諸君の仲間は組合に入つて、こゝ二三日のうちに、銚子支部の發會式をやることになつて居るのだから、其時は、諸君は全員こぞつて銚子支部發會式に加はるよう、諸君は直ちに組合に入らねばならぬ。

諸君の仲間が労働組合に入つたことを知つた資本家濱口は、組合をつぶそうとして、二名の者を解雇しようとしたが、夫は、労働組合が出来ると、いままでのように安い日給で諸君を使ふことが出来なくなる、そうすれば濱口のふところに入る儲が、へるからである。けれども、夫だけ労働者にとつてトクなのだと言ふことは、誰にでもわかるだらう、大正十三年に組合をつくつた時には、残念にも濱口のためにつぶされてしまつたことは諸君の知つて居ることだが、こんどこそは、石にかちりついても、組合をつくりあげねばならぬ。そして、一日も早く野田の労働者のように、安心して働けるよう、ラクな生活の出来るようにしなければならぬ。

今や諸君の目の前には、諸君の米ヒツをカラにするか、今よりモツト一パイにするかと云ふ大きな問題が、フラスがつて居るのだ。そして夫は諸君の心がけ一でどうにもなる問題だ

立て、銚子の労働者よ！ まさに時は今だ！ 此時

を失ふならば諸君は、孫子の代までも濱口の奴レイと
ならねばならぬ。

立て、銚子の労働者よ！ 勇敢に起て！

銚子支部の發會は近し！！

大正十五年十月廿七日

日本労働 關東釀造労働組合
總同盟